

平成28年度 有田町立有田中部小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
有田を愛し、夢や希望を持って、明るく元気に生きる児童を育成する。	教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。 児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。 望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	教職員の資質向上	・校内研究の推進 ・教師の授業力向上	・授業実践を通じての校内研究を重ね、指導技術の向上を図る。 ・児童アンケートで、「授業が分かる」の指標を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の指標を80%以上にする。	・事前・事後の研究会も含め授業研究会に主体的に参加し、「分かる授業」づくりの研究を深める。 ・日々の授業実践を重視するとともに、自らの授業を客観的に振り返る機会を設け、指導技術の向上を図る。 ・研究会、講座等に積極的に参加するとともに、研修報告等を行い、全体の資質の向上に努める。	B	・授業研究会は計画通りに実施でき、学び合いを中心に授業の在り方について研修を深めることができた。 ・各種講座や研究会発表会への参加は積極的にでき、個別の能力向上は図れたものの、職員間での共有には課題が残った。 ・アンケート指標は児童が73、保護者が78で、目標まで届かなかった。	・学校全体としての取り組みやすさも検討しながら内容を吟味し、全学級で共通した取組にしている。 ・校内研究の情報提供も含め、取組の広報等を積極的にを行い、学力向上に向けた啓発を行っている。 ・引き続き、授業実践に基づいての情報交換や意見交換を重視し、実践的な能力の向上を図っていく。
教育活動	学力の向上	・個に応じた指導の充実による基礎学力の向上	・学力検査で、前年度から標準化得点が向上した児童の割合を増やす。 ・12月県調査では、学校平均を全体平均と同程度またはそれ以上とする。	・朝のドリルタイムの在り方を内容面・方法面で改善し、国・算の基礎的学習の定着を図る。 ・算数科を中心として「学び合い」を取り入れ、既習事項を効果的に習得・活用させ、思考力・表現力を向上させていく。 ・TT担当以外の職員の活用を工夫し、理解に時間のかかる子や配慮を要する児童の支援を組織的に進めていく。	C	・県調査では、5・6年は県平均を上回るか同等の結果となったが、4年では下回る教科、領域が多かった。5・6年においても、国語科は前年に比べ得点率が下がった。 ・問題の趣旨を読み解き、活用問題や記述式問題に対応する力の向上が課題として残った。	・記述式問題への対応など、児童の弱点克服に特化した授業研究会等を行う。 ・日々の授業実践を重視するとともに、指導技術を振り返るチェックシートなどを活用し、改善策を図る。 ・児童の習熟度に応じた補充指導の在り方を模索し、具体化を図る。
教育活動	教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・「分かる授業」楽しい授業、づくりの推進	・電子黒板やデジタル教科書の活用を工夫し、学力向上に結び付け。 ・児童の情報発信の技能を高める。	・情報教育推進リーダーやICT支援員を中心に、年3回以上研修会を実施し、学力向上に結び付けようという活用方法を蓄積する。発表会等で情報発信させるために、情報モラルに気を付けさせながら、プレゼンテーションソフト等の活用スキルを身に付けさせていく。	A	・校内研修は計画的に実施できた。職員間の情報交換等も行われ、ICT活用の技能が少しずつ高まってきており、児童の95%が「楽しく、分かりやすい」と肯定的に捉えている。 ・情報モラルについては、児童・保護者を対象とした講座を実施することもでき、意識を高めることができたが、継続指導が必要である。	・推進リーダーやICT支援員を中心に、学力向上につながる活用方法について研修会を持つとともに、OJTによる研修の充実を図っていく。 ・情報モラルについては、道徳・学級活動・総合的な学習の時間等において、関連付けた指導を意識的に進めていく。
学校運営	開かれた学校づくり	・地域と連携した体験活動の推進 ・積極的な情報発信	・地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ・保護者アンケートで「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の指標を80%以上にする。	・教育活動に地域人材を活用し、地域の色を体感させる。 ・体験活動で得た知識・技能を他の場面でも活用する手立てをとる。 ・学校便り、学校メール、ホームページ、各種委員会等の機会をとらえ、情報発信の機会を増やす。	B A	・地域の方や高校の協力で、焼き物や工業製品などの「ものづくり」に熱れる機会を複数回持つことができた。 ・体験で得た知識・技能の活用については、総合的な学習などである程度できたが、まだ不十分である。 ・校長による学校だよりの発行を積極的に進めた。その結果、子どもたちの様子や学校の取組がより分かって非常に良かったという声を多数もらった。 ・教育方針・内容の認知については、74%でもう一歩だった。	・焼き物以外の地域の素材についても発掘していき、様々な分野での体験ができるようにしていく。 ・体験活動で学んだことを、外部に広報する活動なども積極的に進め、連携を深めていく。 ・引き続き、学校だよりの発行を積極的に進め、情報発信を密に行っていく。 ・ホームページによる情報発信も充実させていきたい。

児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	心の教育	・いじめの教育、人権教育の充実	・児童アンケート「学校が楽しいですか?」「とてもそう思う」の割合を75%以上とする。 保護者アンケート「お子さんは、「学校が楽しい」と感じていると思いますか?」で、「とてもそう思う」の割合を50%以上とする。	・学級での人間関係を深める活動を計画的に仕組み、一人一人のよさが感じられる活動ができるようにする。 ・「いのち」「平和」をテーマに全校集会を実施し、各学年・学級の取組につなげる。 ・「ふれあい道徳」、各種便り等で、心の教育に関する取組を紹介し、保護者・地域への啓発を図る。 ・人権意識を高め、人権教育の充実につなげるための職員研修を実施する。	B	・児童アンケート結果は63%、保護者アンケート結果は46%で、いずれも目標まで届かなかった。 ・全校集会は2回実施でき、学級での取組の振り返りまで行うことができた。 ・「ふれあい道徳」については、各学級で計画的に実施し、保護者への啓発を行うことができた。 ・人権教育の充実に向けて、仲間づくりについて、Q-Uアンケートのデータに基づいて研修することができた。	・人権に関する学習を積極的に取り入れた学級も多かったため、さらに広げるとともに継続していきたい。 ・人間関係を深めるための参考図書を購入も行ったうえで、積極的に学級活動等で活用していくよう働きかける。 ・人権・同和教育の深まりを目指した研修の在り方を検討し、長期休業中等に実施できるよう計画していきたい。
教育活動	生徒指導・教育相談	・規律ある学校生活の確立 ・教育相談の充実	・学校のまきまりや社会のルールを守るようにする。特に、本年度は安全な廊下歩行を励行させる。 ・児童アンケートで、「悩みがあったとき、相談する友だちや先生がいる」の指標を90%以上にする。	・廊下歩行、トイレのスリッパ並べ、無音掃除など具体的な行動目標を示し、全職員で共通理解をして、臨場指導を行う。 ・児童や保護者が気軽に相談できるよう、お便り等での情報発信を増やす。 ・相談を受ける児童についての共通理解を図り、多くの職員等が関わりを持っていくようにしていく。 ・相談担当者が担任との情報交換や校内巡視の機会を増やして、児童理解に努める。	B B	・学校生活において大きな事故等が発生せず、概ねよかったが、重点事項としていた廊下歩行については、まだまだルールが守れていない児童が多く見られる。 ・指標は77で目標に届かなかった。相談しやすいう環境づくりに努めたい。 ・SCとの相談を受けられたことで、問題行動への認識を深めるなど保護者の変化が認められる事例があった。 ・相談希望者が増えているので、時間の確保が課題である。	・廊下歩行、挨拶については、今後も継続して指導が必要である。その際、全職員が共通理解し、ふれあい指導を徹底していく必要がある。 ・教科や学級活動等でも心の悩み等の対処方法を積極的に取り入れ、予防教育を徹底する。 ・SCとの相談が数多くできるように、事前の広報や調整を早め早めに行う。 ・関係機関との連携を深め、専門的なアドバイスが得られるようにする。
教育活動	いじめの問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・保護者アンケート「学校は、子どもや保護者の相談に適切に対応しているか?」「とてもそう思う」の割合を30%以上にする。	・いじめに関するアンケート、教育相談週間を実施し、状況把握を適宜行っていく。 ・いじめの問題、人間関係での悩み等の相談受付について、積極的に情報発信していく。	B	・アンケートと保護者からの訴えでいじめを認知できた。きめ細かな観察と相談しやすいう環境づくりに努めた。 ・人権やいじめ根絶に向けた取組で発生率は低いので、今後も豊かな人間関係作りなどしっかりと取り組んでいく。	・月ごとこの月の気持ちを振り返るアンケートを実施し、担任のみでなく(担当者やひまわり委員も)を通していく。 ・保護者と日頃からのコミュニケーションを図るとともに、PTA活動等の機会にも積極的に関わりを持っていく。
教育活動	特別支援教育	・校内支援体制の充実	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び支援を図る。	・5月と2月にアンケートを実施するとともに、検査や参観等で支援を必要としている児童を取り囲む。 ・個別の支援計画及び指導計画の作成並びに活用を進める。	A	・町の支援員の活用をはじめ、全校を挙げた支援体制で指導の充実を図ることができた。 ・担任を中心に個別の支援計画を作成するとともに、情報交換を密に行い、個に応じた支援につなげることができた。	・日々の気づき等を細目に確認し合いながら、状況に応じた支援の充実にも取り組んでいく。 ・アンケート調査や検査の活用とともに、関係機関との連携等も検討し、専門的なアドバイスも得たい。

望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	健康・体づくり	・児童の体力向上 ・健康な体づくりへの意識の向上	・体育的行事に「楽しんで参加している」児童の割合を増やす。 ・健康に関心を持ち、食についての理解を深める。 ・児童アンケートで、「手洗い、うがい、歯磨きがきちんとできる」の指標を90%以上にする。	・持久走やなわとび月間等を設定するとともに、「外遊び」を励行し、楽しむ機会を増やす。 ・養護教諭、栄養教諭を中心に健康教育、食育を進める。また、給食試食会を通して、保護者への啓発を行う。 ・日々の呼び掛けをこまめに行い、習慣化を図る。	B	・年度初めの計画に沿って取組を進めたものの、進んで楽しんでいる児童の割合は、現状維持であった。 ・食育については、日々の給食やおにぎりや試食会、試食会の開催などで理解を深めさせることができた。 ・手洗い、うがい、歯磨きは、学級指導に加え委員会活動などでも呼びかけられたが、目標まで届かなかった。	・「みんなで遊ぶ日」などの取組を各学級で積極的に取り入れ、外遊びなどをとおして体を動かす楽しさを感じ取らせていく。 ・健康や衛生については、日々、繰り返し声をかけ、臨場指導を続けるとともに、学級活動等でその意義を考えさせ意識を高める。
教育活動	低学年の学習環境の改善・充実	・低学年の基本的な学習・生活習慣の育成	・「人の話を聞く」「あいさつ返事をきちんとする」「学習用具をそろえる」の定着を図る。	・日々の生活の中で、「生活のめあて」として具体的に取組をしながら、継続して指導していく。 ・有田っ子スタイルを活用して、共通指導をすすめる。	B	・目標としていた話の聞き方や学習用具の準備は、概ねできているが、あいさつ返事については、元気のなさもあり、引き続き指導していく必要がある。 ・学習規律については、基本的な約束が浸透しつつある。	・あいさつ返事については、そのことの重要性を説き臨場指導するとともに、登校時の気持ちの在り様などにも心を配った指導を行っている。 ・中学年、高学年との連携を深め、より良いモデルを示す指導も進めていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・ICT利活用教育の推進や開かれた学校づくりの一環としての情報発信については、計画に基づき積極的に取り組むことができた。特に、学校だよりを中心とした情報発信や職員からの細かい情報伝達等に関しては、PTA保護者や地域の方々からも一定の評価をいただくことができた。信頼関係を築き、安心して通わせることのできる学校という思いを持っていただけたよう、さらに開かれた学校づくりを進めていきたい。

・学力向上については、本校の最重要課題の一つとして、指導方法の改善や教育環境の充実を図り、授業の質の向上に努めてきたものの、十分な成果として表れるところまでは至っていないのが現状である。学年間の学習状況の定着の度合いの差も見られることから、全校で学力の向上に取り組むことを職員とともに児童にも意識付けを行い、学校一体となって取り組んでいく。

・全体的な評価結果として、「概ね達成」が多くなり、一定の成果は上げられていると考えられるものの、アンケート等の結果でも「不十分である」という評価は多い。来年度は「A(ほぼ達成)」をさらに増やしていく。そのために、この学校評価を活用しながら目標を明確に持つ取組を進めていく必要がある。

は共通評価項目、 は独自評価項目